

2021年9月17日

基本領域学会
事務局 各位

一般社団法人日本専門医機構

理事長 寺本 民生

専門研修に関するハラスメント対策委員会

委員長 木村 壯介



専門研修におけるハラスメントが疑われる相談案件の報告および
専攻医相談窓口設置について

謹啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は一般社団法人日本専門医機構に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当機構では、2020年2月より専門研修に関するハラスメント対策委員会（以下「ハラスメント委員会」）が設置され、専攻医が研修を受けるにあたり、希望する領域において、適切な研修を受けることに関し、何らかの障害が生じることがないように、中立的な立場から情報を収集し、対応を検討しております。現在までに当機構に様々な案件が寄せられております。以下に2021年8月現在のハラスメントが疑われる相談案件について報告させていただきます。

なお、2020年10月より当機構HP上に「専攻医相談窓口」を設置しております。改めて、「専攻医が希望する領域で、十分な知識・経験を得るための適切な研修を受けることに関し、何らかの障害を感じている状況にある場合」はご利用下さいますよう専攻医にお知らせいただけますと幸いです。

1. 専門研修におけるハラスメントが疑われる相談案件状況

(1) 情報収集の方法

・ 「専攻医相談窓口」

- ・ 専門研修プログラム委員会へ届けられた、プログラム辞退・転科・移動：

(※2018年度～2021年度 専攻医採用数：35, 290名)

2019年秋～2021年7月まで（1年10ヶ月）辞退・転科・移動： 約700件

- ・ 専門研修プログラム委員会事務局から、メールで「理由・原因」を問い合わせた結果、得られた数値

ハラスメント有り、または、どちらとも言えない： 約90件

(2) 具体的内容（専攻医側からの訴え）

- ・ 高圧的態度、人間関係に耐えられない、連続当直、担当(症例)を割り当てない、人手不足、残業多く手当なし、等

(3) 機構としてのハラスメントに関する相談対応について

① 現在の対応、考え方

- i. 現状把握、情報収集
- ii. 当該専攻医を守る観点から、ハラスメントに関する相談の事実確認については、直接介入することは難しい問題であるため慎重に対応している
- iii. 個人が特定されるような調査、介入は控える

② 今後の対応

- i. 大学病院等、ハラスメント委員会が設置されている機関に対しては、機構ハラスメント委員会と協働で調査することを検討する
- ii. 引続き専門研修プログラム委員会の協力を得て、より良い研修が行われるため情報収集を行う

2. 専攻医相談窓口設置についてお知らせ（2020年10月よりHP掲載）

専門医制度に則った研修を受ける皆さんは、誰でも将来を見据え特定診療科の尊敬する指導医の下で多くの症例を経験したいという希望をもっていると思います。一方で、期待と異なる環境での研修を行うという現実を受け入れなければならない思いを感じることもあるのではないのでしょうか。本来、専門医研修プログラムは皆さんにとって基本的に受容できるものであり、成果を上げる研修である必要があります。

「希望する領域で、十分な知識・経験を得るための適切な研修を受けることに関し、何らかの障害を感じている状況にある場合」は、この相談窓口を利用して下さい。相談によって、個人情報、医療機関の名称等が外部に漏れることはありません。安心してご相談ください。

専攻医相談窓口：<https://jmsb.or.jp/senkoi/#an13>

以上、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

謹白